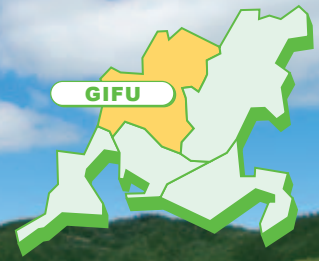


中部 だより

中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。



“スポーツの聖地”に向けて ～飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアでの取り組みから～

岐阜県は、“県民が明るく健康で心豊かに暮らし、地域に元気があふれる、スポーツによる清流の国ぎふの実現”を基本目標とした「清流の国ぎふスポーツ推進計画」を2015年に取りまとめた。計画では県が有するスポーツ施設を活用した取り組みが重点の一つとして掲げられており、施設の改修を進めるとともに、世界規模のスポーツ大会や事前合宿の招致が推進されている。

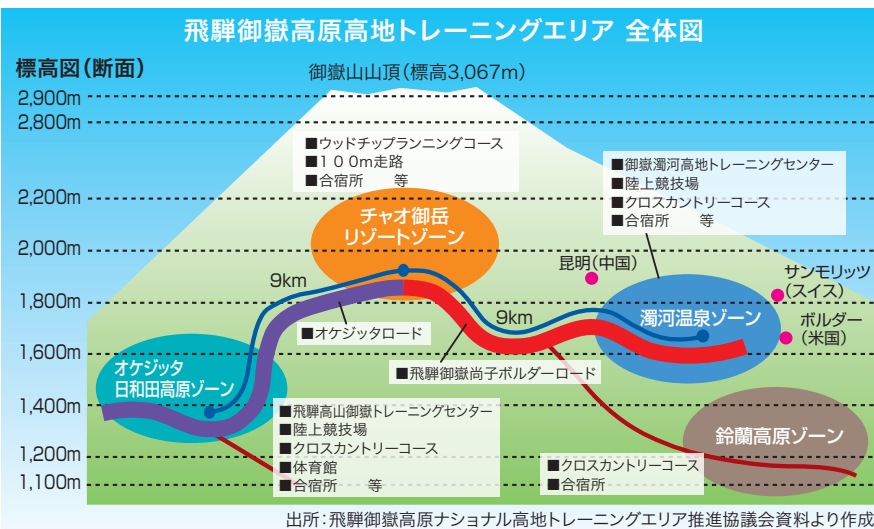
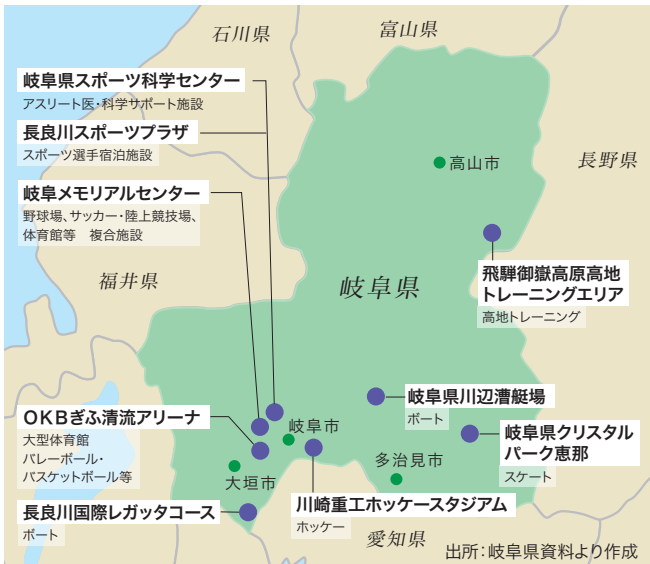
“スポーツの聖地”に

岐阜県はスポーツ施設を多数保有しており、これまでも国際大会の開催やトップクラスの選手・チームによる大会の事前合宿が行われてきた。しかしながら、利用は一部に留まっており、世界的に広く知られるレベルには達していない。そのような中、岐阜県

は、スポーツ施設を単なるスポーツをする場だけでなく、世界的なトップアスリートやチームを輩出し、多くのアスリートが目指して集まってくる“スポーツの聖地”となることを目指している。

世界レベルと同等の高地トレーニングエリア

飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアは、岐阜県の北東部、高山市・下呂市に立地しており、標高1,200m～2,200mの高低差の中に4つのトレーニングエリアを有した施設群を総称したものだ。2008年度より蔵王坊平アスリートヴィレッジ(山形県上山市)とともにナショナルトレーニングセンター(NTC)高地トレーニング強化拠点施設の指定を受けている。酸素が希薄で気圧が低い高地でトレーニングをすることで、酸素摂取能力を高め、全身持久力を高めることができる。世界的には、米国のボルダー(標高約1,600m)や中国の昆明(標高約1,900m)が有名だが、同トレーニングエリアは、ほぼ同じ条件下でトレーニングを行うことができる。



陸上競技場(提供：岐阜県)



谷川を利用した天然アイシング場(提供：岐阜県)

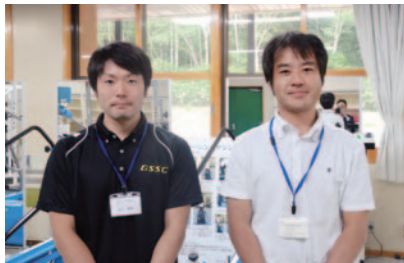
インテリジェンスを活用したトレーニング支援

さらに今年5月、トレーニングエリアの中核拠点として滞在型トレーニング施設「御嶽にぎりご濁河高地トレーニングセンター」が整備された。



トレーニング室(提供:岐阜県)

宿泊室、食堂、温泉、体育館に加え、低酸素室、高気圧酸素カプセルなど充実したトレーニング機器も設置されている。食堂では、NTCで提供されている競技別食事メニューを参考に、指導者からの要望に応じてカスタマイズした食事を提供している。また、NTCの医・科学サポートスタッフも配置されている。サポートスタッフとして常駐する谷口耕輔さんは、「高地トレーニングは脱水症状に陥りやすく、見た目だけでは判断できない。サポートスタッフは毎日選手を検査し、分析結果を科学的知見に基づき指導者にフィード



NTC医・科学サポートスタッフの谷口さん(左) 岐阜県地域スポーツ課の野尻さん(右)

バックする。指導者はその結果を踏まえトレーニングメニューに反映し、より安全かつ効果的なトレーニングを行うことができる」と言う。

地域一体となった支援

同トレーニングエリアの優位性は、高地という自然環境やトレーニング機器が充実しているだけではない。施設を所有する岐阜県、高山市、下呂市および民間により、「飛騨御嶽高原ナショナル高地トレーニングエリア推進協議会」が組織されており、利用者からの要望を共有し、選手がより良い環境でトレーニングが積めるように協議が行われている。トップアスリートの世界では、練習後のアイシングは必須だが、既設の谷川を利用した天然アイシング場に加え、陸上競技場の脇に自動製水機や休憩ができる東屋を設置した。いずれも利用者からの声を反映したものだ。また、合宿所として利用されている民間宿泊施設の調理担当者をNTCに派遣し、競技別の食事メニュー研修を行うなど、ソフト面での底上げも行われている。現地に常駐する岐阜県地域スポーツ課の野尻政徳さんは、「飛騨御嶽高原高地

トレーニングエリアの強みは、異なる高低差の中でバラエティに富んだ施設でトレーニングができること。加えて、我々関係者が合宿中のチームの指導者、選手と緊密にコミュニケーションを図り、問題が発生すれば早急に解決することに努めるなど、ソフト面での支援にも力を入れている。現在は陸上競技がメインだが、今後は競技の幅を広げ、夏場以外の閑散期の利用拡大にも取り組んでいきたい」と言う。こうした現場での努力と、国内外のチームや選手の合宿後の躍進が相まって、利用者は着実に増加している。

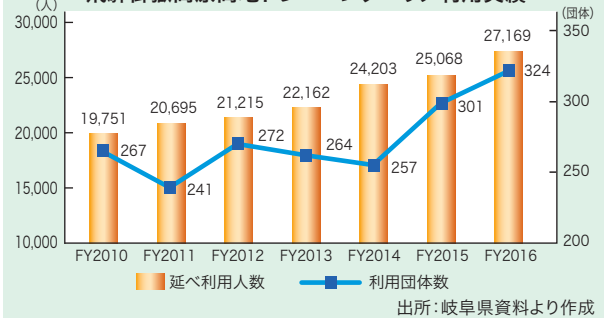
世界陸上北京大会事前合宿を実施した選手の主な実績

| 氏名 | 性別 | 種目 | 世界陸上北京大会 2015.8 | リオ五輪 2016.8 |
|------------------|----|---------|-----------------|-------------|
| モハメド・ファラー(英) | 男子 | 5,000m | 金メダル | 金メダル |
| | | 10,000m | 金メダル | 金メダル |
| マシュー・セントロヴィッツ(米) | 男子 | 1,500m | 8位入賞 | 金メダル |
| ゲーレン・ラップ(米) | 男子 | マラソン | 5位入賞 | 銅メダル |
| | | 10,000m | 5位入賞 | 5位入賞 |

2016年度利用団体の国内主要駅伝大会での実績

| 順位 | 実業団駅伝(男子) 2017.1 | 実業団駅伝(女子) 2016.11 | 箱根駅伝 2017.1 | 全日本大学女子駅伝 2016.11 | 全国高校駅伝(女子) 2016.12 | 利用団体 |
|----|------------------|-------------------|-------------|-------------------|--------------------|------|
| 1 | 旭化成 | 日本郵政G | 青山学院 | 松山 | 薫英女学院 | |
| 2 | トヨタ自動車 | 第一生命G | 東洋 | 立命館 | 西脇工業 | |
| 3 | トヨタ自動車九州 | ヤマダ電機 | 早稲田 | 名城 | 神村学園 | |

飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア利用実績



東京五輪は通過点

同トレーニングエリアには東京五輪の事前合宿として、仏陸上中長距離チームの利用が決定している他、米、英チームとも協議を進めており、さらに他国からの視察も相次いでいる。合宿をした選手らの東京五輪での活躍をきっかけに高地トレーニングの“聖地”となることが期待される。そして、中部圏の観光資源と組み合わせた「スポーツツーリズム」の推進、地域経済の発展にも期待したい。東京五輪の際は、事前合宿をした“飛騨育ち”の選手に注目して観戦する一味違った楽しみ方を提案したい。

文:岐阜担当 和田 耕一郎

取材協力:岐阜県清流の国推進部地域スポーツ課

(公財)岐阜県体育協会御嶽濁河高地トレーニングセンター